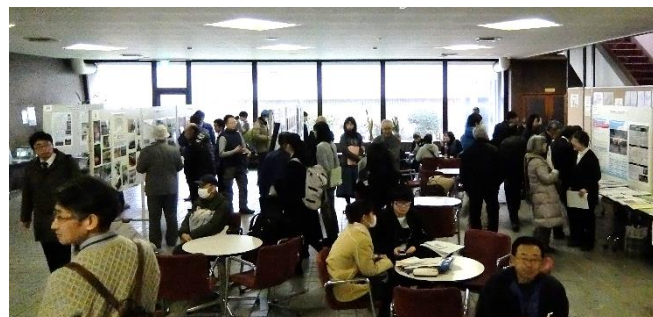


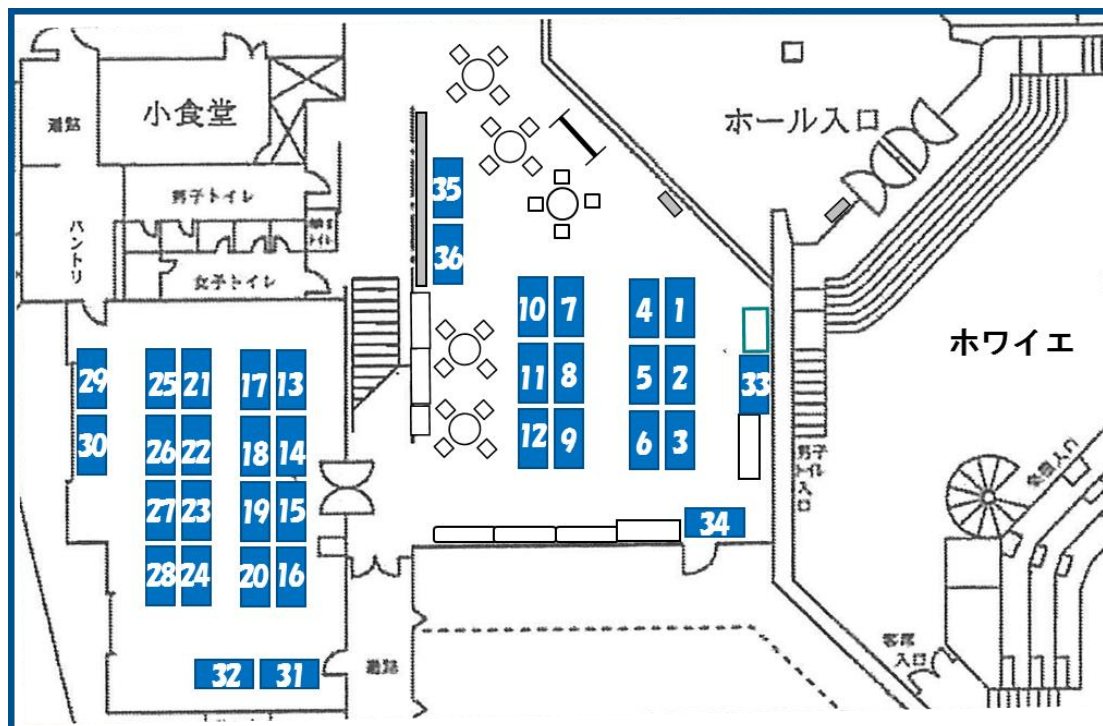
【第2部 ポスターセッション】

発表団体：

川で活動・研究する 43 団体・学校



■会場配置



■発表団体一覧（ポスターNo. 順）

ポスター No.	団体名
1	荒川夢クラブ
2	荒川クリーンエイドフォーラム
3	忍川の自然に親しむ会
4	原市沼を愛する会
5	綾瀬川をきれいにする会
6	綾瀬川を愛する会
7	飯能市エコツーリズム推進協議会
8	いきがい松山29
9	NPO 法人エコシティ志木
10-1	埼玉県立川の博物館(学芸員 藤田宏之)

ポスター No.	団体名
10-2	♡リケジヨ Saitama♡(埼玉県中央環境管理事務所)
11	埼玉南部漁業協同組合朝霞支部
12	笹目川の環境を守る会
13	日本医療科学大学環境教育プログラム開発チーム
14	埼玉県立本庄高等学校(清水 優輝)
15	栄東中学・高等学校理科研究部(高校2年 長澤啓太)
16	草加パドラーズ
17-1	埼玉県立熊谷西高校 SSH(石川青空・北原悠真・中島雄斗・村山京平)
17-2	埼玉県立熊谷西高校 SSH(赤坂 玲)
17-3	埼玉県立熊谷西高校 SSH(中嶋将太・瀧上旺樹)
18-1	埼玉県立熊谷西高校 SSH(黒濱寛生・見ル野文杜・瀬戸友貴・小林稜介・中嶋将太・松北凜花)
18-2	埼玉県立熊谷西高校 SSH(黒濱寛生・見ル野文杜・瀬戸友貴・小林稜介・中嶋将太・松北凜花)
19	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室(大塚美優)
20	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室(高山晃徳)
21-1	NPO 法人越谷ふるさとプロジェクト
21-2	獨協大学米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」チーム
22-1	東京学芸大学吉富友恭研究室(大木航央)
22-2	東京学芸大学吉富友恭研究室(小徳 真)
23	東京学芸大学吉富友恭研究室(高榮晋平)
24-1	東京学芸大学吉富友恭研究室(河西貴史)
24-2	東京学芸大学 水辺の学びデザインプロジェクト(鈴木享子・神村佑・吉富友恭)
25	見沼代用水土地改良区
26	獨協埼玉中学高等学校サイエンス部水班 船生 悠貴、関田 晃仁
27	新河岸川水系水環境連絡会
28	埼玉県立越谷北高等学校生物部
29	草加環境推進協議会
30	国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所
31	戸田の川を考える会
32	比企の川づくり協議会
33	熊谷市ムサントミヨをまもる会
34	協同組合浦和のうなぎを育てる会 NPO法人越谷ふるさとプロジェクト
35	埼玉県環境科学国際センター
36	公益社団法人 日本水環境学会

■発表の概要（五十音順）

6 綾瀬川を愛する会／川口綾瀬の森自然保護区(自然ふれあいゾーン)

昨年6月より、埼玉県県土整備部、川口市、町会長、小学校長、埼玉河連、綾瀬川、伝右川に深い関心を持つNPO 他が集まって、町会長岡田順三議長と、綾瀬川を愛する会代表森中定治副議長を選出し「川の国埼玉はつらつプロジェクト」がはじまりました。

綾瀬川の川口市側の遊歩道の舗装について話し合い、決定を行うプロジェクトです。できるだけ自然にやさしい素材と姿を求め、あえて綾瀬川の森の周辺は自然状態の道の草刈り回数を増やすことを希望しています。綾瀬小学校横の土手には絶滅危惧種ナガボノアカワレモコウが自生し、昆虫も絶滅が心配されるクルマバツタ、シヨウリヨウバツタモドキを含めて300種以上が確認されています。3年前には県のクールス ポット百選にも選ばれ、23年に亘って子供たちの自然教育の場として活躍してきた自然を“川口綾瀬の森自然保護区”として残して欲しいのです。また綾瀬新橋は非常に交通量が多く、子供や老人の安全のために両側に歩道が必要です。

5 綾瀬川をきれいにする会／綾瀬川をきれいにする会の活動

① 当会は、地域の有志と地元企業である大阿蘇水質管理㈱とで、汚染度全国ワースト5を更新していた綾瀬川の浄化を目指して2008年2月に発足した。② 大阿蘇水質管理㈱により、高圧洗浄機など、ボランティア団体では扱えない機材も駆使して、河川内の粗大ゴミのサルベージを主に実施している。

1 荒川夢クラブ／活動紹介～川のゴミ拾い～

今年は川のゴミ拾い活動を中心に紹介いたします。荒川の本流、水系支流の川口市内の豎川、緑川のゴミ拾いのようすです。あわせて、小中学生やボーイスカウトの子供たちのがんばっているゴミ拾いの姿を紹介します。

2 荒川クリーンエイドフォーラム／埼玉県内の荒川クリーンエイド各会場は～

2017年度の埼玉県内の荒川クリーンエイド各会場をご紹介します。残念ながら、今年は雨天のために中止となった会場が多かったです。実施会場は、市役所主催もあれば、市民団体、学校企業とさまざまです。

8 いきがい松山29／いきがい松山29の美化活動

いきがい松山29は、彩の国いきがい大学東松山学園の卒業生で活動を行っています。2015年4月に発足し、都幾川の学校橋から鞍掛橋までの約2Kmの右岸と左岸の美化活動の様子を紹介します。

9 NPO 法人エコシティ志木／NPO 法人エコシティ志木の活動

エコシティ志木は、1995年に発足。2002年にNPO法人化しました。環境・施設の保安全管理・創出事業、調査・研究事業、観察会・学習教育事業、エコツアー事業などの活動についてご紹介します。



3 忍川の自然に親しむ会／忍川の自然に親しむ会

忍川・さきたま調整池(旧忍川)の調査・研究を通して、市民が水に親しみを持ち、自然環境を大切にできるようにする。川の国応援団に所属し、忍川の清掃活動や環境省の全国水生生物調査などを進める活動を実施している。

34 協同組合浦和のうなぎを育てる会、NPO法人越谷ふるさとプロジェクト ／水辺の生き物調査in越谷レイクタウン ～海と日本PROJECT～

今や絶滅危惧種のニホンウナギなど水辺の生き物を子どもたちと調査することで、調節池だけでなく、川、最終的に水が流れ込む東京湾、海の大切さに気づいてもらいたい、そんな想いをこめて実施したものです。

33 熊谷市ムサシトミヨをまもる会／世界に熊谷だけに住む冷水魚ムサシトミヨ

昭和62年設立。保護・保存を目的に活動を開始。県の魚・熊谷市の魚。川の定期的草刈・清掃・地域内3校の繁殖活動の補助・ムサシトミヨ生息地が未来遺産に登録・熊谷の自然遺産を未来に生きる子供達へつなげたい。

30 国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所／平成30年度 武州・入間川プロジェクト助成団体募集

「武州・入間川プロジェクト」とは、武州ガス株式会社、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所、公益財団法人埼玉県生態系保護協会が主体となり、入間川流域で環境保全活動を行っている市民団体等を支援するための活動助成です。

21-1 NPO 法人越谷ふるさとプロジェクト／川をめぐる子ども体験バスツアー

私たちの団体は、新しい「ふるさと越谷」を育むことを目的として、水と緑に関わる活動を続けている。埼玉県と越谷周辺地域の環境を体験的に学ぶ越谷市との連携事業について発表する。

35 埼玉県環境科学国際センター／埼玉県環境科学国際センターの活動紹介

埼玉県環境科学国際センターは、学習施設と研究所が一体となった環境科学の中核機関です。当センターの環境学習に関する講座やイベントの紹介、水環境に関する調査研究事例の紹介を行います。

10-1 埼玉県立川の博物館(学芸員 藤田宏之)／国内外来種ヌマガエルの分布拡大

ヌマガエルは国内外来種として関東地方各都県へ分布拡大し、埼玉県では1990年代に利根川流域、2000年代はじめに荒川流域で生息が確認されたことを皮切りに、県東部・南部の平野へと分布が広がった。これまで利根川・荒川両河川流域の扇状地から、下流域への分布拡大がみられていたが、支流や山間部や丘陵地の水田などへ、河川を伝った流下とは考えられない分布拡大がみられたことを報告する。



17-1 埼玉県立熊谷西高校 SSH(石川青空・北原悠真・中島雄斗・村山京平)

／熊谷西高校自然科学部 シアノバクテリアの液肥に対する増殖の研究

シアノバクテリアの液肥に対する増殖の研究を行っている。様々な液肥を試し、シアノバクテリアにとって最適な液肥とその濃度について研究報告する。



17-2 埼玉県立熊谷西高校 SSH(赤坂 玲)

／熊谷西高校自然科学部 ムジナモ自生地を訪れて

ムジナモについて興味を持ち、昨年7月30日にムジナモ自生地である羽生市三田が谷宝蔵寺沼を訪れた。また、羽生市ムジナモ保存会の方で、たくさん育てられているお宅に訪問しお話を伺い、ムジナモをいただいた。いただいたムジナモを学校と家で生育させてみたが、家のものは1か月で全滅してしまった。学校のものは大きくなり4株増えた。違いを、今後調べたい。

17-3 埼玉県立熊谷西高校 SSH(中嶋将太・瀧上旺樹)

／熊谷西高校自然科学部 田んぼの甲殻類の休眠打破について

我々は、甲殻類の休眠卵が孵化することについてのメカニズムに興味を持ち、本研究グループを発足させた。甲殻類の休眠卵が孵化することを「休眠打破」という。身近に休眠打破を観察できる生物は、田んぼに生息する甲殻類であると考えた。そこで、ミジンコを始めとした、カブトエビ、ホウネンエビ、カイエビの甲殻類4種の休眠打破のメカニズムを解明することを目標として実験を始めた。実験を試みた結果、その全てにおいて、実験期間中の約1ヶ月間休眠打破を確認できなかった。実験期間を終了し、インキュベーター(温度を一定に保つ装置)から出して観察を続けた結果甲殻類の孵化が認められた。

18-1 埼玉県立熊谷西高校 SSH(黒濱寛生・見ル野文杜・瀬戸友貴・小林稜介・中嶋将太・松北凜花)

／熊谷西高校自然科学部 荒川の水質調査報告(2017)

この荒川の水質調査は熊谷西高校と都立江北高校が中心となって、毎年夏休みに行っている。年ごとに水質にどのような変化があったかを調べている。荒川中流の水質は去年に比べ今年のほうが悪くなっていた。また、確認できた生物も、それに応じた変化が見られた。一方、荒川下流の水質や指標生物は、去年と今年ではあまり変化は見られなかった。上流は湧き水のように冷たく澄んでいた。それに対し河口に近づくにつれて水温は高くなり、水質は悪くなっていった。それについては、生活用水や雑排水の流入によるものだと考えられ、例年通りである。

18-2 埼玉県立熊谷西高校 SSH(黒濱寛生・見ル野文杜・瀬戸友貴・小林稜介・中嶋将太・松北凜花)

／熊谷西高校自然科学部 大滝げんきプラザ周辺の森林調査報告

2017年8月21日 秩父市 埼玉県立秩父市にある大滝げんきプラザ周辺の森林のコドラート調査を行った。各班の結果、考察からこのスギ林はよく管理されていて、木々の高さや胸高直径などがほとんど均一であると分かった。また、スギ林の特徴として間引き(間伐)されたスギがあちこちに見られ落葉が多かった。二次林の特徴は樹種が多く、高さ・胸高直径・葉の面積・生え方などそれぞれの木で違いがあった。二次林には根元から枝分かかれた木も多く、こちらでも以前に木の伐採がされているようだった。

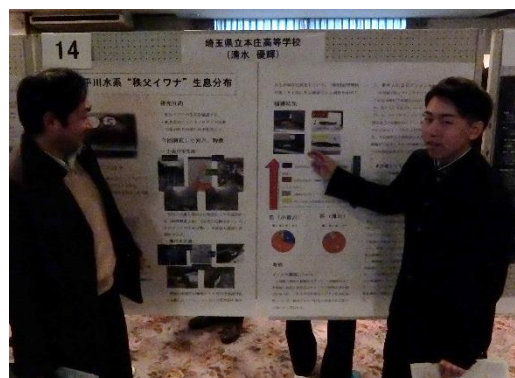
28 埼玉県立越谷北高等学校生物部／越谷北高校周辺の水生生物を探る

越谷北高校周辺の用水路に生息する水生生物に興味を持ち、どのような外来生物が生息しているか、また在来生物と外来生物がどのように分布しているかを調査した。その結果を発表する。

14 埼玉県立本庄高等学校(清水 優輝)

／赤平川水系秩父イワナの生息分布

現在秩父イワナの在来個体数は減少傾向にあります。今まで外見と遺伝子解析による秩父イワナのはっきりとした指標がなかったため、在来個体を探し釣り人にも分かる指標作りをしてきました。



11 埼玉南部漁業協同組合朝霞支部／アユの棲む川

新河岸川水系の河川には、天然遡上のアユがあふれています。アユは毎年産卵し、孵化した仔魚は東京湾へ下り、翌春、川をさかのぼってきます。そうしたアユの生態を紹介します。

15 栄東中学・高等学校理科研究部(高校2年 長澤啓太)

／芝川における透視度の局所的な変化の考察

私達は学校の横を流れる芝川の水質調査を1988年から継続的に行っている。経年の調査から砂大橋周辺で透視度が急激に上昇していることがわかった。そこで今年度は透視度に着目してその変化の原因を探究することを目的に、塩分濃度と浮遊物質量(SS)の測定を試みた。また透視度の重要性を確認するため、本校生徒・教職員全員を対象としたアンケート調査も実施した。

12 笹目川の環境を守る会／笹目川の環境保全

多自然川づくりなどにより、笹目川の水辺環境は徐々に改善されている。笹目川の貴重な自然環境を取り戻し、住みよいまちづくりを推進するため、河川の清掃活動、啓発活動などを行い、水辺の環境保全の重要性を訴える。

19 城西大学理学部化学科環境生命化学研究室(大塚美優)

／LAMP法を用いたヌマエビ在来種—外来種群判別の試み

埼玉県に自然分布するヌカエビは、外来種であるシナヌマエビなどの侵入により、近年その個体数を減少させている。これらの分布や生息数を簡便に把握するための環境DNA分析手法としてLAMP法を用いた手法を紹介する。

20 城西大学理学部化学科環境生命化学研究室(高山晃徳)

／スナヤツメ隠蔽種の判別～環境DNAによる調査を念頭に～

日本各地で絶滅危惧種とされているスナヤツメには形態的に識別が困難な隠蔽種(北方種、南方種)が存在する。埼玉県にも本種が生息するため、環境DNAによる調査を視野に入れた種判別マーカーの作成とその結果を発表する。

27 新河岸川水系水環境連絡会／アユは河川の健全な水循環の象徴

川の魚の象徴であるアユと河川水質との相関関係を、経年グラフにより見える化し、おいしく食べられるアユを育てるために必要なことを、わかりやすく図で示している。

29 草加環境推進協議会／草加環境推進協議会活動報告

「人と自然が共に生きたま ち そうか」を実現するために活動する草加環境推進協議会の主な事業を紹介する。古綾瀬自然ひろば維持管理、綾瀬川クリーンプロジェクト、夏休み綾瀬川探検隊、綾瀬川再生 21 事業

16 草加パドラーズ／綾瀬川クリーン大作戦

昭和 50 年代から連続 15 年間ワーストワンの綾瀬川でした。市民と行政の協力で大分改善され、平成 23 年に「綾瀬川復活宣言」をし、活動が終了しましたが、実態は浮遊ゴミの多さに心を痛めた市民がカヌーでゴミ拾いを始めました。

21-2 獨協大学米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」チーム

／伝右川プロジェクト活動報告～学生が行う川づくり～

獨協大学脇に流れる伝右川を綺麗にするために伝右川プロジェクトが行っている、カヌーを用いた清掃活動、川ガキ養成事業(子供向けカヌー体験会)、小学校での環境教育や子供向け水生生物調査についての発表。

22-1 東京学芸大学吉富友恭研究室(大木航央)

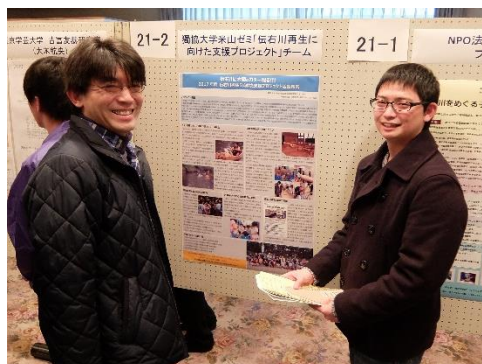
／水害に着目した防災・減災教育のための教材利用に関する研究

局地的集中豪雨が増加傾向にある近年、学校現場の「防災教育」に着目すると「水害」を事例とした取り組み例は少ない。今回は小学校高学年児童に実施した質問紙調査の結果をもとに、児童の水害に対する意識の傾向について紹介する。

23 東京学芸大学吉富友恭研究室(高榮晋平)

／上越地域の小河川に生息する回遊性底生魚類の生態に関する基礎研究

生息数の減少が報告されている淡水性カジカ科魚類の一種であるカマキリ(別名アユカケ)をはじめとする上越地域の小河川に生息する底生魚類数種を対象として、耳石を用いた回遊履歴の推定と胃内容物を用いた食性解析を行った結果を報告する。



22-2 東京学芸大学吉富友恭研究室(小徳 真)／祭り・神事の場としての河川

河川は生活と深く関わる場として信仰の対象とされてきた。河川で行われる、あるいは河川に関わる祭りや神事を通して、河川に対する人々の意識や活用方法を分類・整理し、信仰の場としての河川の文化的機能を紹介する。

24-1 東京学芸大学吉富友恭研究室(河西貴史)

／親水整備された河川空間における来訪者の利用行動と環境条件に関する研究 -源兵衛川を対象として-

来訪者の活動的側面に配慮した河川空間に関する知見を得るため、親水整備された河川である源兵衛川において、来訪者の属性や利用行動と空間および時間の関係、その特徴や生物・物理的な環境条件について発表する。

24-2 東京学芸大学 水辺の学びデザインプロジェクト(鈴木享子・神村佑・吉富友恭)

／スペシャル・インタレスト・ツアーを通じた水辺の環境学習

水辺の学びデザインプロジェクト WaSIT(Water Special Interest Tours)は、水辺の持つ学びの場としての魅力を探り、それらを表し発信するプロジェクトである。学生が水辺をテーマに様々な旅をし、それらの経験から生まれたアイデアをグループワークにより教材化する。学生独自の着想による成果と活動の様子を報告する。

26 獨協埼玉中学高等学校サイエンス部水班 船生 悠貴、関田 晃仁

／新方川の水質調査結果報告 ～透視度、溶存酸素量、pH測定より明らかとなった環境指標としての「身近な河川」の有効性～

学校の周囲を流れる新方川について、長期的な水質調査を行った。透視度、溶存酸素量、そしてpH値の通年観測および24時間観測の結果、水質変動の規則性が明らかとなった。私達の経済活動とどのように関係があるのか考察する。

31 戸田の川を考える会／EMを川に流してはいけません

戸田市では環境保全の名目でEMの河川投入が行われてきたが、当会は汚濁負荷の増加につながるとして、これを止める活動を行ってきた。その経緯を発表するとともに今後、より効果的な活動とするための問題提起を行う。

13 日本医療科学大学環境教育プログラム開発チーム／アリから見える環境

日本医療科学大学では、学生と教員が一体となり、大学敷地内や周辺の高麗川流域を利用した環境教育プログラム開発を行っています。ポスターでは、生態系の多方面に亘って影響を及ぼすアリ類の採集結果を紹介しています。



36 公益社団法人 日本水環境学会 公益社団法人/日本水環境学会の活動

ポスターセッション来場者と対話をしながら、公益社団法人 日本水環境学会の活動を紹介するとともに、当学会が発行している「水生生物調査冊子」「水生生物調査下敷き」他を展示します。

4 原市沼を愛する会/原市沼蓮池で古代蓮の育成管理

①20年余りに亘り、ボランティアで続けてきた原市沼川そばの蓮池における古代蓮の育成管理状況を紹介したい。②蓮の果托を使って、人形、壁懸、手芸品等を作って楽しまれており、それらの作品を紹介したい。

7 飯能市エコツーリズム推進協議会 楽しみ方は無限大/エコツアーで川と仲良くなる時間

飯能市では、地元ガイドの案内で、地域の自然や文化を楽しみながら保全・継承につなげるエコツアーを開催しています。今回は「外来魚の駆除」、「川歩き」、「滝行体験」など、エコツアーならではの川の楽しみ方をご紹介します。

32 比企の川づくり協議会/魚を増やそうシンポジウム等活動紹介

「魚を増やそうシンポジウム」や「都幾川生き物調査」「外来種駆除」「水質調査」「新宿小学校及びつきのわ小学校の環境学習」「比企の川づくり協議会川の見学会」「市野川クリーンエイド(ゴミ拾い)」等の活動をご紹介します。

25 見沼代用水土地改良区/見沼ホテル復活に向けた土地改良区の取り組み

見沼代用水にホテルを呼び戻そうと、さいたま市緑区三室地内の西縁用水路に、平成19年からホテル蛹化場を設置して、三室水辺ネットワーク(土地改良区、地元自治会、NPO法人、さいたま市、埼玉県等)を組織し、潤いと安らぎに満ちた水辺環境の保全を行っています。

10-2 ♡リケジョ Saitama♡(埼玉県中央環境管理事務所)

/♡リケジョSaitama♡が贈る環境学習講座「ecoZa」の概要

♡リケジョSaitama♡とは、中央環境管理事務所の化学職女性職員で結成したグループであり、県民の浄化槽への意識向上、ひいては河川水質の向上を目的に環境学習講座「ecoZa」を開催している。「ecoZa」の概要を紹介する。

